

姉崎正治蔵書目録（東京大学所蔵分）

鈴木健郎

高橋 原

解 題

今回ここに公表するのは、東京帝国大学宗教学講座の初代教授、姉崎正治（号は嘲風、1873[M6]-1949[S24]）の蔵書目録（東京大学所蔵分）である。姉崎は日本の宗教学の草創期に決定的に重要な役割を果たしたが、日本における宗教学という学問の成立史と、それが今日の「宗教」概念のあり方といかに関わるのかという問題は、宗教学に固有の問題であるとともに、日本近代史における西洋の学問・制度の受容のあり方を照射する重要なトピックでもある。

東京大学設立は1877[M10]年であり、日本における学問の近代的制度化が開始された。姉崎は井上哲次郎が指導する帝国大学文科大学哲学科を1896[M29]年に卒業し、1898[M31]年に講師として東大で宗教学の講義を開始した。1900[M33]年に『宗教学概論』を公刊し、助教授に就任。留学を経て、1904[M37]年、教授に昇格した。東大に宗教学講座が設置されたのは翌1905[M38]年。宗教学研究室の設置は1912[M45]年である。おおよそここに至る時期を日本の宗教学の制度的確立期と見なすことができよう。本目録はこうした日本の宗教学成立過程の研究に基礎資料を提供するものである。

〔蔵書復元の限界〕

姉崎正治の蔵書の全体像を復元することにもとより限界はあるが、とりわけ大きな障害となるのは、小石川の姉崎宅が1945[S20]年五月の空襲によって全焼し、書齋にあった蔵書の全てが、その他の資料や勲章などとともに焼失したことである¹⁾。姉崎の蔵書のうち現存しているものは、姉崎が1923[T12]年から1933[S8]年にわたって東大総合図書館に寄贈した約250冊（東大寄贈本）、空襲以前の昭和18年前後に自宅から鎌倉の別宅に移動され²⁾、その後昭和23年に天理大学図書館に寄贈された約1100冊を中心とするもの（天理寄贈本）、そして宗教学研究室に未整理のまま保存されていた300冊弱（研究室所蔵本）のみである³⁾。後述のように、天理寄贈本は現時点では部分調査にとどまっております全貌が不明であることと紙数の制約のため今回の目録からは除外した。

〔「研究室所蔵本」の性格〕

〈由来〉

ここに研究室所蔵本としてまとめるものは、法文二号館四階、宗教学科の金井研究室（部屋番号2405）に未整理のまま放置されていた図書で、次項に記すラベルと、内容、蔵書印、献辞、出版時期などから姉崎の個人蔵書であったことが推測可能なものである。由来は不明なものが多いが、少なくともその一部は、かつて総合図書館の館長室に保管されていたようである⁴⁾。それがおそらくは、後の宗教学科教授であり、図書館長も務めていた岸本英夫の退官時に移動され分散したと思われる。現在までに金井研究室に集められているが、それ以前は安田講堂地下書庫を含む、宗教学研究室関係各部署に散在していたことがわかっている⁵⁾。

〈ラベル〉

「研究室所蔵本」にはラベルが貼られているものと貼られていないものが含まれる。ラ

ベルには、「MA」と「宗教・MA」の二種類がある⁹¹。両ラベルとも、いつ、誰によって貼られたものなのかは不明であるが、前者のラベルの上に後者が重ねて貼られているものがあることから、時期的には「MA」が「宗教・MA」に先行していることがわかる⁹²。「MA」には番号が付されていないか、あるいは番号が読取不可能なものがほとんどである。読取可能なものに関しても後者の番号との整合性はない。後者には通し番号が付されているが、その順序には一貫した方針が見受けられない。通し番号は1から始まり252で終わっているが、その間に欠番が70冊分あり、欠番分の図書は行方不明である。

「MA」ラベルの貼られたものには蔵書印が捺されている割合が高く、出版年はすべて1920年以前であるので、その他のものより個人蔵書の色合いが強いと言える。MAの二文字はラベルに印刷されているが、MAは姉崎のイニシャルであり、このことから「MA」は姉崎が自らの蔵書を他と区別するために用意したラベルであると考えられる。「宗教MA」に関しては宗教学研究室関係者が整理の便宜のために貼った可能性が考えられる。両者ともにカード、目録類が作成された形跡はない。

高山樗牛から姉崎への献辞（『世界文明史』）

姉崎
高山樗牛
著者

〔「研究室所蔵本」の性格〕

「研究室所蔵本」が姉崎の全蔵書の中で占める位置、自宅に所蔵していた蔵書（焼失分）との関係は推測し難い。姉崎個人の蔵書印が押されたものが多数あること、著者から姉崎に献呈されたものが多数含まれていることから、これが姉崎の蔵書であることはほぼ間違いない。しかし、出版年が姉崎退官後のものであるとか、昭和20年入学の学生の聴講カードが挿まれているもの、ページが切られていないものなどもあり、「研究室所蔵本」の由来と姉崎退官後の管理状況は一義的には確定しがたい⁹³。「研究室所蔵本」が系統的に整理・保存されていたものでないことは、「東京帝国大学文学部宗教学研究室」の蔵書印⁹⁴や、姉崎と高山樗牛の共通の友人であった英文学者、畔柳都太郎氏の蔵書印が押されたもの¹⁰⁰が含まれていることなどからもうかがえる。他に、例えば親友であった高山樗牛の全集のうち、第6巻の「日記及消息」のみが含まれていることから、「研究室所蔵本」の私的な性格もうかがえる¹⁰¹。「研究室所蔵本」のうち、1923年以降に出版されたものは二割にも満たず、「研究室所蔵本」は概して古い蔵書で構成されているといえる。

〔留学、国際交流〕

「研究室所蔵本」の外国人著者について述べる。姉崎は1900-1903年にわたって官費留学し、ドイツ、イギリス、インドなどに滞在した。Ernst Windischはライプツィヒ時代、T. W. Rhys Davidsはロンドン時代にそれぞれ姉崎が師事した学者である。彼らの著作には書き込みが見られ、姉崎が留学中に用いたものと推測できる¹⁰²。キール時代に師事したHermann Oldenbergの*Die Religion des Veda*には、表紙見返しに“Herrn Anesaki, Zum Freundlichen Andenken au R.V. Koeber Tokio 1895”と記されているので、この本は姉崎が東大で哲学の指導を受けたケーベルから譲られた可能性がある¹⁰³。またGangādharaśāstri

にはベナレスでヴェーダの授業を受けている。*Verhandlungen des XIII. Internationalen Orientalisten Kongresses*には留学中にハンブルクで開かれた東洋学会での発表が収められている。

また姉崎は1913-1915年の二年間、ハーバード大学に招聘されて日本文明講座（1913年開設）の講義を行ったが、ハーバード大学の学者としては、James WoodsやJosiah Royceの著作が含まれている¹⁴⁾。以上の著者による著書が東大寄贈本には含まれていないことから、姉崎の蔵書のうち私的な色彩が強いものが「研究室所蔵本」として残っているという一面も指摘できよう。姉崎の図書館長就任は1923年、50歳の年であるので、それより十～二十年前の留学、および在米時代ゆかりの蔵書を館長室に持ち込んだということになるうか。

〔研究〕

「研究室所蔵本」と姉崎の研究生活の関係については必ずしも明らかではない。「研究室所蔵本」が東大寄贈本と対照をなすのは、インド宗教史に関する文献が多く含まれることである。また、『日蓮聖人全集』『日蓮宗宗學全書』など日蓮に関する文献も多く含まれる。このことは、インド宗教史から宗教学の歩みをはじめ、高山樗牛の影響を受けて日蓮に傾倒していった姉崎の関心の変化を反映しているといえる¹⁵⁾。例えば以下のものは、学位論文『現身仏と法身仏』（1904）の参考文献にあげられている。

Karl Eugen Neumann (1896-1902)、V. Trenckner (1888、但しページは切られていない)、E. B. Cowell and R. A. Neil (1886)、T. W. Rhys Davids and J. Estlin Carpenter (1890)。

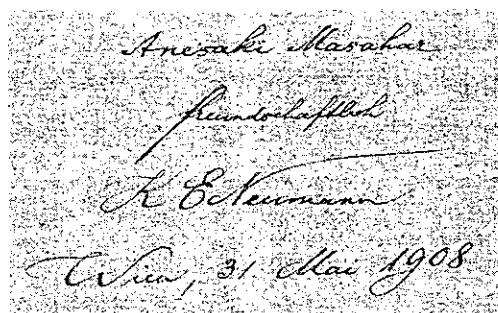
しかしその他の研究分野、たとえばキリシタン研究や聖徳太子研究については「研究室所蔵本」において特筆すべきものは見当たらない。姉崎は美術に関しても造詣が深く、Ruskinに共鳴するところが大きかったと伝えられるが¹⁶⁾、美術関係書は姉崎がターナー論において支持していたとされるRuskinの著作など、ごくわずかである。また、『宗教学概論』（1900）執筆において参考にし、翻訳もしたハルトマンの著作をはじめとする、宗教心理学の著作が含まれていないことは、「研究室所蔵本」が姉崎の全蔵書のうち部分的なものに過ぎないことをうかがわせるものである。

〔その他〕

研究室所蔵本の一つの特徴として、大正期前後の新宗教や時代思潮を反映した雑多な書籍が含まれることがある。まず、「千里眼」や「念写」の実験で知られる福来友吉(1869-

1952)による献呈本がある（『心霊の現象』）。献呈の1916年は、福来がその研究のいかかわしさを理由に東大を退職させられていた時期に当たる。その他、『病と霊』（木村天真による催眠術等を用いた精神療法を説く）、『心教』（著者は心教心理療院道話会長）、『心霊研究』なども、当時の心霊主義、心理学思想の流入を反映したものである。

また、『太靈道主元傳』（太靈道は大本と競合した大正期の新宗教）、『幽裏明』『真に生きるには』（著者宮崎虎之介はキリスト教系の神生教壇の「預言者」）、『聖女光子の聲』（宮崎虎之介の妻、宮崎光子の遺稿集。井上哲次郎、武者小路實篤、島崎藤村などが寄稿）、



K. E. Neumanから姉崎への献辞（Die Reden Gotamo Buddha's aus der Mittleren Sammlung Majhimannikayo des Pali-Kanons I

『天理教祖實傳』、『一乗の進化』（著者は日蓮を信奉し、一乗立憲主義啓導者を自称）など新宗教に関するものや、ナショナリスティックな主張を掲げたものが目立つ。

また『人と人』『世界の變遷と労働』『生の神秘』の三冊は、大隈重信の主唱によって1908年に設立された大日本文明協会の発行である。同協会は欧米思想の代表的著作の翻訳・出版、講演等を通じて国民の啓蒙活動を行った後、戦時下に自然消滅したが、姉崎は顧問として名を連ねていた。

*Herrn Anaxaxi, zum freundlichen
Gedenken an R. v. Koeber
Tokio
1895.*

R. V. Koeberによる姉崎への献辞（Hermann Oldenberg, Die Religion des Veda）

〔天理寄贈本の性格〕

おそらくは天理教の第二代の真柱である中山正善氏が東大で姉崎に師事したことなどを縁として、大量の姉崎蔵書が天理大学付属天理図書館へ寄贈された。天理図書館には「姉崎氏旧蔵書、宗教学関係図書 洋書 約1100冊 昭和23年3月15日付」という受入記録が残されているのみであるが、調査の結果、その他に昭和4年1月に寄贈されたものが存在することが判明している。いずれも書名などの詳細についての記録はない。

これらの書籍は、分類別にしかも数度に分けて整理・配架されたために散在しており、全容の復元はきわめて困難である。背表紙に「MA」ラベルの貼られたもの、「姉崎正治」蔵書印が捺されたもの、天理図書館によって「姉崎文庫」もしくは「姉崎正治氏寄贈」の印の捺されたもの、著者から姉崎への献辞のあるもの、姉崎の筆跡による書き込みがなされたもの、は姉崎蔵書と推測される。しかし、これらの要件を満たしながら姉崎以外の名で寄贈されているものも存在し¹⁹⁾、姉崎蔵書の寄贈・受入・整理の経緯には不明な点が多い。

現時点での部分的な調査の段階でも、インド宗教、基督教、心理学、人類学など多岐にわたる書籍が確認されており、たとえばOldenberg、Rhys Davids、Dalmanなど、「研究室所蔵本」にも名前が見える著者や、James Frazer の *Golden Bough*（『金枝編』）といった古典的著作も天理図書館に寄贈されている。「天理寄贈本」が姉崎蔵書全体のなかで質量ともに重要な位置を占めることは容易に推測されるが、なお調査が必要であり、今回の目録では割愛せざるを得ない。

〔東大寄贈本の性格〕

1923〔T12〕年の関東大震災によって東大図書館は蔵書とともに全焼した。急務となった再建に新図書館長として取り組んだのが姉崎であった²⁰⁾。ロックフェラー財団からの四百万円の資金援助のほか、世界各地から図書が寄贈され、国内では紀州徳川家や森鴎外の蔵書なども寄贈された。そうした流れの中で姉崎自身が寄贈した図書が、目録中の「東大寄贈本」である。これらは現在、請求番号が付されて総合図書館書庫に収められており、通常の閲覧が可能である²¹⁾。

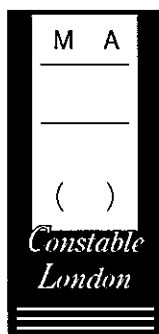
総合図書館に残されている受け入れ票によると、寄贈年月日はいずれも館長在職中の大正12年10月29日、昭和5年4月16日、22日、24日、11月5日、昭和7年4月1日、7月4日、8月1日、10日、10月31日、昭和8年11月30日の合計11回にわたっている。寄贈図書の特徵としては、姉崎個人の蔵書印が押されていないこと²⁰⁾、著者から姉崎への献呈本がないこと²¹⁾が「研究室所蔵本」と対照をなす。

寄贈時期別に見ると、大正12年の寄贈は直接的に震災からの復興を目的としたものと考えられる。昭和5年の寄贈は大半が洋雑誌である。Zwölftes Jahrbuch der Schopenhauer-Gesellschaftを除き、背表紙に「婦一協会図書」と記されて製本されていることから、婦一協会の所蔵であったことがわかる²³⁾。内容的にも欧米の時事・評論誌が主であることが婦一教会の活動趣旨を反映している。昭和7年、8年の寄贈が量的にはもっとも多いが、寄贈時期による相違にその他特筆すべきものはない。内容的には、洋書、和書とも、概して「思想」「宗教」「心理」といったジャンルに分類出来るものが大半を占めるが、国際政治に関するものが散見される。その他、和書には、ルッソ『懺悔録』（後編のみ）のように半端なものや、『東京市（復興）街路及運河（第一回）予定計画図』（掛軸）、内務省土木出張所『利根川改修工事概要』のようなものも含まれる²⁴⁾。波多野精一『宗教哲學序論中の一節』は抜刷りを製本したものであり、鉛筆書きで献辞が書かれている。『労働者の思想に関する調査』は非売品で、東京、大阪をはじめとする全国の工場労働者に対して東大宗教学研究室が実施したアンケート調査の報告書である。質問項目は神の存在、死後の生まれ変わり、「人ハ神様ニナレマスカ」などから、「自由」「権利」「ブルジョワ」「マルクス」といった語句の意味説明を求めるものまで多岐に渡る。

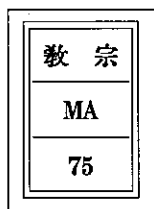
〔整理方針〕

東大寄贈本は和書と洋書に区分し、原則として東大総合図書館の分類請求番号順に準じて配列した。出版データ等は東京大学総合目録(OPAC)、及び、遡及入力目録(RECON)に従ったものがほとんどであるが、現物の所在が不明で目録にも記載されていないものについては外部のデータベースを参考に補った。

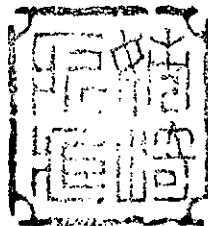
研究室所蔵本については、1. インド宗教・洋書, 2. 仏教・和書, 3. 基督教, 4. 思想・哲学, 5. 社会・海外, 6. 社会・国内, 7. 文学・芸術, 8. 他, 9. 著者献呈という分類順に区分し、各分類内の配列はおおむね発行年にしたがっている。この分類は体系的なものではなく、雑多な「研究室所蔵本」の全体的傾向を容易に一望できるようにするための、あくまで便宜的な配列であるが、時期による研究分野の変化や、貴族院議員あるいは国際人としての関心を反映できるよう考慮した。1.から7.に分類しがたいものを「8. 他」としてまとめたが、これは結果的に大正期の日本の文化状況の一面を反映するものとなった。内容とは無関係に、「9. 著者献呈」という項目を設けたが、その理由は、著者による献呈本は必ずしも姉崎自身の関心を示すものではないということであり、またひとつには、これによって姉崎の交際関係の一端を推し量ることが出来るということである。もっとも、明治知識人たる姉崎は文人としても高名であり、面識のない著者からの献呈の可能性にも留意しなければならない。



ラベル (MA)



ラベル (宗教MA)



蔵書印 (姉崎正治)



蔵書印 (姉崎蔵書)

〈凡例〉

(洋書) 著者名, 書名 (イタリック), 出版地: 出版者, 刊年. [備考]

(和書) 著者名『書名』出版者, 刊年. [備考]

備考欄中の記号の意味は以下。

印…姉崎の蔵書印が押されている。

新…宗教MAラベルが貼られている。

旧…旧MAラベルが貼られている。

?…表紙欠損のため、ラベル不明。

[印新旧] とある場合、蔵書印が捺されており、かつ旧ラベルの上に新ラベルが重ね貼りされていることを示す。宗教MAラベルに付された通し番号には意味がないと判断し、省略した。著者名、出版データ等、不明な部分を明示せずに省略したことがある。

- 1) 焼失冊数は不明。姉崎は焼失を覚悟の上、あえて蔵書を疎開させなかったが、「イエヤクタ、ミナブジ」との報に接して涙したという。姉崎の長女、岸本三世氏の回想による。姉崎正治『我が生涯』姉崎正治生誕百年記念会編、東大出版会、1974, p. ii, pp.90-91.
- 2) 岸本三世氏からの聴取による。
- 3) 東大寄贈本については、実際には寄贈されなかったものも本目録の項目には含まれる（後の注を参照）。研究室所蔵本については今後も新たな発見により追加される可能性がある。また、姉崎正治の孫にあたる姉崎正平氏より、立正大学への図書寄贈の可能性を示唆されたが、確認できなかった。
- 4) 後の宗教学科主任教授、岸本英夫の図書館長時代（1960. 4. 1 - 1964. 1. 25）に館長室の戸棚の中に「MA」ラベルの貼られた書籍が保管されていたのを高木きよ子氏が記憶しておられる。尚、岸本は姉崎の娘婿。
- 5) 高木きよ子氏によると、宗教学科の田丸徳善教授とともに、総合図書館地下書庫に集められていた姉崎関連の書籍を宗教学研究室に移動したことがあったが、詳細は不明。
- 6) 例外的に「宗教学・宗教史学」のラベルも三枚ある。このラベルは時代的にやや新しいので、後から「研究室所蔵本」に付け加えられたものと思われる。
- 7) 天理寄贈本にも「MA」ラベルが貼られたものが多数含まれている。昭和4[1929]年寄贈分にも「MA」本が含まれていることから、「MA」ラベルが貼られ始めたのが同年以前であることはわかる。
- 8) こうした状態は、「研究室所蔵本」が姉崎退官以後、岸本のもとにあったという事情によると推測される。
- 9) Gustaf Dalman (1898), Richard Wagner (1887), *Buddhist and Christian Gospels vol.I & II*.
- 10) Herman Harrell Horne (1910)
- 11) 樽牛全集は全六冊であるが、図書館の受け入れ票によると、寄贈冊数は五冊になっているので、この巻のみを手元に残して残りを寄贈したと推測できる。
- 12) 留学に関しては『わが生涯』 pp. 76-100.
- 13) ケーベルについてのエピソードは『わが生涯』 pp. 54-62.
- 14) 『わが生涯』 pp.101-106.
- 15) 処女作『印度宗教史』（1897[M30]年）、『法華経の行者日蓮』（1916[T5]年）
- 16) 前田泰次「姉崎先生と芸術」（『姉崎先生の業績』姉崎先生生誕百年記念会、東京大学出版会、1974, pp. 19-20.）
- 17) 「中山正善氏寄贈」「教会本部」などの印が捺されているものがある。
- 18) 在職期間は1923-1934（大正12年-昭和9年）。
- 19) 但し請求番号や現物の所在が不明のものも少なからずある。また、東大総合図書館では、震災に続

く時期の寄贈図書に関しては「復興本」として、受け入れ票を寄贈者ごとに一括管理しており、今回東大図書館寄贈本として収録したものはその受け入れ票をもとにしている。受け入れ票に記載された後、二重線で消されているものがある。これらは、すでに図書館が同一図書を所蔵していたために重複を避けて寄贈はされなかったようであるが、今回は目録に含めた。また、寄贈図書は総合図書館書庫に収められているが、たとえば「姉崎文庫」といった形態で一括管理されているわけではなく、カード等によって姉崎による寄贈図書を一括して検索することはできない。これは例えば森鷗外の寄贈図書についても事情は同じであり、特別なことではない。

²⁰⁾ 例外は『鷹山公世紀』

²¹⁾ 例外は『靈雲寺相承安流聖教目録 上・下』

²²⁾ 「研究室所蔵本」のうち「婦一協会図書」の印を持つものは三冊のみである。婦一教会は、1912年の三教会同の趣旨を承け、同年姉崎正治、成瀬仁蔵、渋澤栄一らが設立した。1942年に解散。姉崎の言によれば「世界並びに国民の問題を、所謂政治並びに並に国際問題に限らず、諸々の宗教、諸々の人種国民に通じて、共に人間の天性を發揚すると云ふ主義」に立つ。(大正7年3月22日の講演「現在の国際問題に対する日本人の見解」, 『カリフォルニア大学創立五十年祝典参列に関する報告』所収)

²³⁾ 姉崎は1923年11月より帝都復興院評議会臨時評議員を務めていた。

〔研究室所蔵本〕

1. インド宗教・洋書

Vamanacharya Jhalakikar, *Amarakośa*,
Bombay: Government Central Book Depot
〔印旧〕

Vācaspatimiśra, *Nyāyakanikā*〔書籍の一部。
表紙等はなし〕

A. Weber, *Vajrasūci des Aṣvaghosha*, Berlin:
Akademie der Wissenschaften, 1860 〔旧〕

Paṇḍita Maheśachandra Niyāyaratna (ed.),
The Aphorisms of the Mīmāṃsā, Published
by the Asiatic Society of Bengal. Calcutta:
Printed at the Ganes A Press. 1873 〔旧宗〕

William Dwight Whitney, *Indische
Grammatik: Umfassend die Klassische
Sprache und die Älteren Dialecte*, Leipzig:
Breitkopf und Härtel, 1879. 〔旧〕

M. Leon Feer (ed.), *The Saṃyutta-Nikāya
of the Sutta-Piṭaka*, London: Oxford
University Press, 1884. [?, 全般に鉛筆で書
込]

Yogavārtika, Benares: E. J. Lazarus & Co.,
1884. 〔旧〕

E. B. Cowell and R. A. Neil, *The Divyāvādana,
A Collection of Early Buddhist Legends*,
Cambridge: At the University Press, 1886. 〔印
旧〕

Leopold V. Schroeder, *Indiens Literatur
und Cultur in Historischer Entwicklung*,
Leipzig: H. Hässel, 1887. 〔印旧〕

V. Trenckner, *The Majjhima-Nikāya. Vol. 1*,
London: Oxford University Press, 1888. 〔べ
ーじ切られておらず〕

Raajendralaala Mitra, *Ashtasāhasrikā*,
Calcutta: G. H. Rouse, Baptist Mission
Press, 1888.

Peter Peterson, (ed.), *The Nyayabindutika
of Dharmottaracharya: To Which Is Added
the Nyayabindu*, Calcutta: Printed by G. H.
Rouse, Baptist Mission Press, 1889. 〔印新〕

Ernst Windisch (ed.), *Iti - Vuttaka*, London:
Published for the Pali Text Society, by
Henry Frowde, Oxford University Press
Warehouse, 1889. 〔書込多数〕

Śrīmadbhagavadgītā, *mumbā*,
Nirnayasagara, 1889. 〔旧〕

Monier Williams, *Hinduism: Non-
christianism Religious Systems*, London:
Society for Promoting Christian
Knowledge; N. Y.: E. & J. B. Young & Co.,
1890. 〔新, 書込多数〕 This book belongs to
S. Murayama” とあり、村上専精氏の所有
であったらしい]

T. W. Rhys Davids and J. Estlin Carpenter
(ed.), *The Dīgha Nikāya Vol. 1*, London:
Published for the Pali Text Society, by
Henry Frowde, Oxford University Press
Warehouse, 1890. 〔遊び紙頁に目次を書込〕

Szubbhádra Bhikshu, *Buddhista Káté
Bevezetésül Gótamó Buddha Tanához*,
Maramaros-sziget Mayer es Berger
Konyvkereskedese, 1893. 〔新〕

Arthur A. Macdonell, *Sanskrit - English
Dictionary*, London: Longmans, Green, and
Co., 1893. 〔旧〕

Śrīmadbhagavadgītā, *mumbā*,
Laksmī venkateṣvara, 1893. 〔印旧〕

Ralph T. H. Griffith, *The Hymns of the*

Sāmaveda, Benares: E. J. Lazarus and Co., 1893. [旧]

Ralph T. H. Griffith, *The Hymns of the Atharva-Veda*, vol. II, Benares: E. J. Lazarus, 1896. [印]

Hermann Oldenberg, *Die Religion des Veda*, Berlin: Wilhelm Hertz, Besserche Buchhandlung, 1894. [旧, 書込“Herrn Anesaki, Zum Freundlichen Andenken au R.V. Koeber Tokio 1895”]

Aṣṭadaśasmṛti, Mumbai, Śrīvenkateṣvara 1895. [新]

Ernst Windisch, *Māra und Buddha*, Leipzig: S. Hirzel, 1895. [旧]

Karl Eugen Neumann, *Die Reden Gotamo Buddho' s aus der Mittleren Sammlung Majjhimannikāyo des Pāli-Kanons I-III*, Leipzig: Verlag von Wilhelm Friedrich, 1896-1902. [旧, vol. Iは著者献呈本]

Karl Eugen Neumann, *Die Reden Gotamo Buddho's aus der Längereren Sammlung Dīghanikāyo des Pāli - Kanons*, München: R. Piper & Co., 1907. [旧]

Robert Chalmers(ed.), *The Majjhima-Nikāya*, London: Published for the Pali Text Society, by Henry Frowde, Oxford University Press Warehouse, 1896-1902 [vol. II 1-2, vol. III 1-3]

W. Caland, *Die Altindischen Todten- und Bestattungsgebräuche*, Amsterdam: Johannes Müller, 1896. [旧]

Joseph Dahmann, *Nirvāna: Eine Studie Zur Vorgeschichte des Buddhismus*, Berlin: Felix L. Dames, 1896. [旧]

A. Govindāchārya, *Śrī Bhagavad - Gitā by Śrī Rāmānujāchārya's Viśishtādvaita - Commentary*, Madras: The Vaijayanti Press, 1898. [印旧]

Mahāmahopādhyāya Gangādharaśāstri Tailanga(ed), *The Nyāyavārtikatātparyāikā of Vāchaśpatī Micra*, Benares: E. J. Lazarus & Co., 1898. [印旧]

Moggallāna Thērō, *Abidhānappadīpikā ; Or, Dictionary of Pāli Language*, Colombo: George J. A. Skeen, Government Printer, Ceyron, 1900. [印旧]

Yājñavalkyasmṛti, Mumbai, Śrīvenkateṣvara, 1900. [印旧]

Ernest J. Eitel, *Hand-book of Chinese Buddhism Being a Sanscrit-chinese Dictionary by Vocabularies of Buddhist Terms in Pāli, Singhalese, Siamese, Burmese, Tibetan, Mongolian and Japanese*, Tokyo: Sansyusya, 1904. [新]

P. Lakshmi Narasu, *The Essence of Buddhism*, Madras: Srinivasa Varadachari & Co., 1912(2nd ed., orig. 1907) [旧]

S. Sørensen, *Index to the Names in the Mahabharata*, London: Williams and Norgate, 1908

Dharmanāṃda Kosāmbī, *Laghupāṭha*, Bombay: N. Powell & Co., 1917.

Georg Grimm, *Die Lehre des Buddha: Die Religion der Vernunft*, München: R. Piper & Co., 1922.

D. R. Bhandarkar, *Asoka*, Calcutta: University of Calcutta, 1925.

J. H. Woods and D. Kosāmbī,

Papañcasūdanī Majjhimanikāyaṭṭhakathā of Buddhāghosacarīya Part II. Suttas 11-50, London: Published for the Pāli Text Society by Humphrey Milford Oxford University Press Warehouse, 1928. [ページ切られておらず]

Emile Senart, *Chāndogya-Upaniṣad*, Paris: Les Belles Lettres, 1930. [ページ切られておらず]

B. D. Mulgaokar, *The Handy English: Sanskrit Dictionary*, Bombay: Gopal Narayan & Co., 1936.

2. 仏教・和書

土佐秀信(画)『仏像図彙』山口屋(各宗本山御用書肆)[新,全四冊(二、三、四、五)刊年なし]

吉田庄左衛門刊行『悉曇書目』吉田庄左衛門刊行,萬治3[1660][新]

吉田庄左衛門刊行『無縁慈悲集』吉田庄左衛門刊行,萬治3[1660][新]

『大和上行状記』全二冊(天・地),元禄15[1702]年,天保2[1831]年[新]

藤井宣正『仏教小史 第二部』大谷津速堂,1896.6

村上專精『和漢佛教年契』金港堂書籍株式会社,1898.10

高楠順次郎『巴利語仏教文學講本』金港堂書籍株式会社,1900.11[新旧]

清水梁山『浄土真宗論』廣宣館発行,1904.3[新]

日蓮,稲田海素(校訂)『高祖遺文録』祖書普及期成会,1904.8[書込多数]

久米邦武『上宮太子實録』井冽堂,1905.4[新旧]

前田慧雲『蓮如上人』井冽堂,1906.5(1906.7初版)[新]

浄土宗務所宗學部『浄土宗義綱要』浄土宗務所宗學部,1907.4[新旧]

日蓮宗全書出版會『峨眉集』須原屋書店,1911.7[新]

荒木英一『大日本國所立聖教の意義』日蓮正宗信徒 中光達(中彌兵衛),1915.11[新]

橘憲勝『佛教心理の研究』丙午出版社,1916.4[新]

佐々木 発行『無著論集』法文館,1917.10[新]

本田日生『大藏經要義』博文館,1917-18[新旧,計8冊(第二卷、第五~十一卷),]

藺田宗恵『佛教と歴史』佛教大學内六條學報社,1919.8再版(初版同年7月)[新旧]

田中智學『日蓮主義法難集(毒鼓殉教號別本)』国柱産業書籍部,1920〔国柱会系雑誌『毒鼓』の別冊、主催は田中智學。刊年は推測。〕

三浦周行[編纂]『傳教大師傳』滋賀県比叡山坂本村延暦寺御遠忌事務局,1921.3[新]

日蓮宗宗學全書刊行會『日蓮宗宗學全書』日蓮宗宗學全書刊行會,1921.6-1926.9[新,計15冊]

田中俊逸 編『支那山西省 大同石佛寫真集解説』祇園莊 東洋古美術研究会,1922.1[新]

津田敬武『佛教美術と上代文化』國史講習會, 1923.5 [新]

岡教遠訳『大方廣莊嚴經 上編』光壽會, 1923.10 [新]

帝室博物館『院政時代の供養目録』帝室博物館, 1924.12

山川智應『日蓮聖人遺文研究 第二輯』天業民報社, 1925.12

清水龍山(編纂)『日蓮聖人全集』日蓮宗宗學全書刊行會, 1926. (初版1921.8-1925.6) [新, 全5冊(第一卷、第二卷、第四卷、第五卷、第七卷)]

岩野直英『蓮華經』普文館, 1935.7 [新]

3. 基督教

Bossuet, *Méditations sur l'Évangile*, Paris: Librairie Garnier Freres [新]

J. A. Dorner, *Entwicklungsgeschichte der Lehre von der Person Christi (Teil 1, 2)*, Berlin: Gustav Schlawitz, 1851-1853 [印旧]

L'abbé, *Le Jésuite*, Paris: Librairie Internationale A. Lacroix, Verboeckhoven & Co, Éditeurs, 1865.

Theodor Keim, *Rom und Das Christenthum*, Berlin: G. Reimer, 1881. [旧]

Julius Lippert, *Christenthum, Volksgrabe und Volksbrauch*, Berlin: Theodor Hofmann, 1882. [印旧]

Alois Emanuel Biedermann, *Christliche Dogmatik*, Berlin: Georg Reimer, 1884. [旧]

W. Gass, *Geschichte der Christlichen*

Ethik, vol.1-2, Berlin: Georg Reimer, 1881-1886.

Richard Wagner, *Jesus von Nazareth. Ein Dichterischer Entwurf aus dem Jahre 1848*, Leipzig: Breitkopf & Härtel, 1887. [印新, 押印「東京帝国大学文学部宗教学研究室」]

Otto Böckler, *Handbuch der Theologischen Wissenschaften in Encyclopadischer Darstellung*, Dördlingen: C. H. Beck, 1889.

Otto Pfleiderer, *Der Paulinismus: Ein Beitrag zur Geschichte der Urchristlichen Theologie*, Leipzig: O. R. Reisland, 1890. [印旧]

Heinrich Julius Holtzmann, *Lehrbuch der Historisch-kritischen Einleitung in das Neue Testament*, Freiburg: Akademische Verlagsbuchhandlung von J. C. B. Mohr, 1892. [印旧]

W. M. Ramsay, *The Church in the Roman Empire Before A. D. 170*, London: Hodder and Stoughton, [1892]. [印旧]

Gustav Anrich, *Das Antike Mysterienwesen in Seinem Einfluss auf das Christentum*, Göttingen, Vandenhoeck und Ruprecht, 1894. [印新旧]

H. Holtzmann, R. Zöpffel, *Lexikon für Theologie und Kirchenwesen, Braunschweig*: C. A. Schwetschke und Sohn, 1895. [旧]

John Hunt, *Religious Thought in England in the Nineteenth Century*, London: Gibbings & Co., 1896. [印旧]

Albert Réville, *Jésus de Nazareth: Études Critiques sur les Antécédents de l'histoire*

Évangélique et la vie de Jésus, Paris: Librairie Fischbacher, 1897. [印旧]

Albert Réville, *Jésus de Nazareth II*, Paris: Librairie Fishbacher, 1897. [印旧]

Heinrich Julius Holtzmann, *Lehrbuch der Neutestamentlichen Theologie*, Freiburg I. B. und Leipzig: Akademische Verlagsbuchhandlung von J. C. B. Mohr, 1897. [旧]

Gustaf Dalman, *Die Worte Jesu: mit Berücksichtigung des Nachkanonischen Jüdischen Schrifttums und der Aräamaischen Sprache*, Leipzig: J. C. Hinrichs' sche Buchhandlung, 1898. [新, 押印「東京帝国大学文学部宗教学研究室」]

A. M. Fairbairn, *Catholicism: Roman and Anglican*, N.Y.: Charles Scribner's Sons, 1899. [印旧]

Stephan Beissel, *Bilder aus der Geschichte der Altchristlichen Kunst und Liturgie in Italien*, Freiburg I. B.: Herde, 1899. [印旧]

John Edward Courtenay Bodley, *The Church in France: Two Lectures Delivered at the Royal Institution*, London: Archibald Constable, 1906. [印旧]

D. Bernhard Duhm, *Die Psalmen: In den Versmassen der Urschrift*, Tübingen: I. C. B. Mohr (Paul Siebeck), 1907. [新]

E. F. Abbott Smith, *The Church in England: A Simple Church History*, London: Skeffington & Son, 1907. [印旧]

Carl Jentsch, *Christentum und Kirche in Dergangenheit, Gegenwart und Zukunft*, Leipzig: E. Haberland, 1908.

Henri Delacroix, *Études d' Histoire et de*

Psychologie du Mysticisme: Les Grands Mystiques Chrétiens, Paris: Félix Alcan, Éditeur Librairies Félix Alcan et Guillaumin Reunies, 1908. [印旧]

Anton Baumstark, *Die Christlichen Literaturen des Orients*, Leipzig: G. J. Goschen' sche Verlagshandlung, 1911. [新]

E. C. Dewick, *Primitive Christian Eschatology*, Cambridge: at the University Press, 1912. [書込“Anesaki”]

Almanacco Del 'Coenobium' pel 1913: Confessioni E Professioni Di Fede, Lugano: Casa Editrice Del 'Coenobium', 1913. [新, 頁切られておらず]

A. W. Humphrey, *International Socialism and the War*, London: P. S. King and Son Ltd, 1915. [新]

W. J. Sparrow-Simpson, *French Catholics in the Nineteenth Century*, London: Society for Promoting Christian Knowledge; N. Y.: The Macmillan Co., 1918. [新]

Raoul Allier, *Anthologie Protestante Française Xvie et Xvie Siècles*, Paris: Éditions G. Crès & Cie, Genève: Édition Atar, 1918. [新]

Wilfrid Ward, *The Oxford Movement*, London: T. C. & E. C. Jack; N. Y. : Dodge, 191[?] [新]

T. De Wyzewa, *Les Petites Fleurs de Saint François d' Assise*, Paris: Éditions Georgs Cres & Cie, 1920.

W. Y. Evans-Wentz, *The Christian Doctrine of Re-Birth*, Colombo, Ceylon: The Buddhist Chronicle at the Maha-bodhi Press [新]

Cinquante ans d' Apostolat au Japon,
Hongkong: La Societe des Missions-
Etrangères, 1923.

S. Angus, *The Mystery-Religions and
Christianity: A Study in the Religious
Background of Early Christianity*, N. Y.:
Charles Scribner's Sons, 1925.

ロジデスト・ワエンスキー; 堀江復 (訳)
『神學汎論 後編』正教會, 1891.1 [新]

上田將『基督正教会史』正教會編輯局,
1893. [新]

アウガスチン; 宮崎八百吉 (訳)『アウガス
チン懺悔録』警醒社書店, 1907.12 [新]

武本喜代藏『基督教哲学一斑』警醒社書
店, 1910.11 [新]

William Adams Brown (柏井園 訳)『基督
教の耐実行性 — Is Christianity Practicable
?』日本基督教興文協会, 1917.4 [新]

日佛会館(編)『日佛文化 新第三輯』同文
館, 1933. [後藤末雄「佛國耶蘇会士の文献
に現はれたる支那の禁教事情」以外は切り
取られている]

殿ヶ丘修道院(編)『昭和十二年度 聖會
典禮』歐亞書房, 1936.11 [新]

4. 思想・哲学

J. Arthur Thomson, *Introduction to
Science*, London: Williams & Norgate; N. Y.:
Henry Holt; Toronto: Wm. Briggs; India: R.
& T. Washbourne [新]

Arthur Schopenhauer, *Die Welt als Wille
und Vorstellung* I, II, Leipzig: Philipp
Reclam Jun. [書込多数。『意志と現識とし
ての世界』の翻訳(1910-11)のために使用し

たものか。]

Arthur Schopenhauer, *Parerga und
Paralipomena: Kleine Philosophische
Christen*, Leipzig: Philipp Reclam Jun. [昭
和21年6月25日付の貴族院公衆傍聴券(紹
介議員姉崎正治)が挿まれている。]

Arthur Schopenhauer, *Der Satz Vom
Grunde Überden Willen in der Natur die
Beiden Grundprobreme der Ethik*,
München: R. Piper & Co., 1912.

J. Radford Thomson, *A Dictionary of
Philosophy in the Words of Philosophers*,
London: R. D. Dickinson, 1887. [印宗]

Stephen Sheldon Colvin, *Schopenhauer's
Doctrine of the Thing-in-itself and His
Attempt to Relate It to the World of
Phenomena*, Providence: Franklin Press,
1897. [新]

John Fiske, *Myths and Myth-makers: Old
Tales and Superstitions Interpreted by
Comparative Mythology*, Boston and N. Y.:
Houghton, Mifflin, Copyright, 1872, by
James R. Good & Co. Copyright, 1900, by
John Fiske. [新]

*Verhandlungen des XIII. Internationalen
Orientalisten Kongresses. Hamburg
September 1902*, Leiden: E. J. Brill, 1904.
[印旧, Sektion II Aに姉崎論文あり。
Masahar Anesaki, "Der Sagatha-Vegga des
Samyutta-Nikaya und seine chinesischen
Versionen"]

Josiah Royce, *The World and the
Individual* (Second Series Nature, Man,
and the Moral Order), N. Y.: The Macmillan
Company, 1904. [旧]

Elwood Worchester, Samuel Meccomb,

Isador H. Coriat, *Religion and Medicine: The Moral Control of Nervous Disorders*, N. Y.: Moffat, Yard & Company, 1908. [新, 書込“To Harriet Gray Christmas 1908 from her affectionate nephew Horace.”]

William Berryman Scott, *The Theory of Evolution*, N. Y.: The Macmillan Company, 1917. [新]

C. H. Meray's *Weltmutationstheorie: Kleine Ausgabe Der 'Weltmutation'*, Zürich: Max Rascher, 1919. [新, ページ切られておらず]

Oswald Spengler, *Der Untergang des Abendlandes: Umriss einer Morphologie der Weltgeschichte Band 1: Gestalt und Wirklichkeit*, München: C. H. Beck, 1923 [新]

朝永三十郎『人格の哲學と超人格の哲學』弘道館, 1909.9 [新]

井上哲次郎、元良勇次郎、中島力造『英独佛和哲學字彙』丸善株式會社, 1912.1 [新旧]

波多野精一『宗教哲學の本質及其根本問題』岩波書店, 1920.11 [新旧]

補永茂助『欧米人の神道觀 全』皇學書院 1920.11 [新]

スタンレイ・ド・ブラアス『生の神秘』大日本文明協會事務所, 1921.9 [新]

5. 社会・海外

Juliette Adam (orig.F.) J. O. P. Bland (trans. E.), *The Schemas of the Kaiser*, London: William Heinemann [新]

James Adderley, *In Slums and Society:*

Reminiscences of Old Friends, London: T. Fisher Unwin [新]

D. H. Macgregor, *The Evolution of Industry*, London: Williams & Norgate; N. Y.: Henry Holt; Toronto: Wm. Briggs; India: R. & T. Washbourne [新]

Louise Creighton, *Missions their Rise and Development*, London: Williams & Norgate [新]

H. W. C. Davis, *Medieval Europe*, London: Williams & Norgate [新]

Jane Addams, *Democracy and Social Ethics*, N. Y.: The Macmillan Company, 1907. [宗, 「新渡戸寄贈」と押印あり]

Official Report of the Seventeenth Universal Congress of Peace Held at Caxton Hall, Westminster, London July 27th to August 1st, 1908, Issued by the National Council of Peace Societies London, 1909. [新旧, 口絵写真中に姉崎]

Herman Harrell Horne, *Idealism in Education or First Principles in the Making of Men and Women*, N. Y.: The Macmillan Company, 1910. [新, 蔵書印「畔柳」記名“K Kuroyanagi”]

Robert Hunter, *Poverty*, N. Y.: The Macmillan Company; London: Macmillan, 1912. [新]

Francis Greenwood Peabody, *The Approach to the Social Question: An Introduction to the Study of Social Ethics*, N. Y.: The Macmillan Company 1912. (orig. 1909) [新]

Dewitt Mackenzie, *The Awakening of India*, London: Hodder and Stoughton,

1912. [新]

Report of the International Commission to Inquire Into the Cause and Conduct of the Balkan Wars, Washington, D. C.: Carnegie Endowment for International Peace, 1914. [新, 蔵書印「婦一協会図書」]

Gordon Le Sueur, *Cecil Rhodes: The Man and His Work*, London: John Murray, Albemarle Street, W., 1914. (orig. 1913) [新]

Enrico Ferri, *Criminal Sociology*, N. Y. and London: D. Appleton and Company, 1915. [新, 書込“Anesaki”]

D. Appleton and Company (ed.), *Out of their Own Mouths*, N.Y., London: D. Appleton and Company, 1917. [新]

University of California Register 1916-17 by Announcements for 1917-18, Berkeley: Univ. of California Press, 1917. [新]

Herbert Bayard Swope, *Inside the German Empire: In the Third Year of the War*, London: Constable and Company, Ltd, 1917. [新]

John Spargo, *Bolshevism*, Harper & Brothers, 1919. [新]

G. P. Gooch, *Nationalism*, London: The Swarthmore Press; N. Y.: Harcourt Brace & Howe, 1920. [新]

R.W.Postgate, *The Workers' International*, London: The Swarthmore Press; N. Y.: Harcourt Brace & Howe, 1920. [新]

Walter B. Pitkin, *Must We Fight Japan ?*, N. Y.: The Century, 1921. [新]

Jerome Davis, *The Russian Immigrant*, N. Y.: The Macmillan Company, 1922. [新]

The Harvard Club of Japan, *The Harvard Tercentenary in Tokyo 1936*, Tokyo: The Harvard Club of Japan [29頁に姉崎正治の写った式典の写真一葉貼付]

Institut International d' Agriculture, *Recueil de Coefficients et d' Équivalences*, Rome:1937.

内田正雄 (編輯)『海外国勢便覧』[新, 和装本]

鈴木半三郎『米國國民性の新研究』洛陽堂, 1916.10. [新, 蔵書印「婦一協会図書」]

ローレンツ=フォン=スタイン (綿貫哲雄訳)『仏蘭西革命史論』興亡史論刊行会, 1918.12 [新]

美濃部達吉『米國憲法の由来及特質』有斐閣, 1918.11 [新, スタンプ「ヘボン氏寄附基金ノ趣旨ニ依り贈呈ス 東京帝國大學法科大學」]

ジョン・リーチ (柳田泉訳)『人と人 全』大日本文明協会, 1921.2 [新]

アール・マックアイバー (田制佐重訳)『世界の變遷と労働 全』大日本文明協会, 1921.3 [新]

井出諦一郎『黎明の南洋』淳風書院, 1929.3 [新]

6. 社会・国内

The Mahayana Buddhists and their Work for Children (『大乘仏教と児童教化』), The Federation of the Buddhist Organisations for Children 1920. ; 仏教少年聯合團 1920.10 発行 [新]

prof. M. Anesaki, With the Compliments of the Author, Tokyo. Sept. '09”]

K. Watanabe, *The Story of kalmāsapāṣḍa and Its Evolution in Indian Literature*, London: Published for the Pali Text Society, by Henry Frowde, Oxford University Press Ware House, 1910. [新, 献辞「嘲風師兄 稿有謹呈」Journal of Pali Text Society, 1910. からの抜刷]

The Journal of Philosophy Psychology and Scientific Methods Vol. XI. No. 1, Lankaster and N. Y.: The Science Press, 1914. Jan. [ページ切られておらず。表紙中の“The Case Method in Ethics and Its Critics: George ClarkeCox”にチェックあり。献辞“Professor M. Anesaki with the compliments of the author”]

Josiah Royce, *War and Insurance*, N. Y.: The Macmillan Company, 1914. [新, 献辞“M. Anesaki by the fraternal good wishes of his colleague, Josiah Royce. November 22, 1914”]

Sidney L. Gulick, *Working Women of Japan*, N. Y.: Missionary Education Movement of the United States and Canada, 1915 [新, 著者は Federal Council of The Churches of Christ in America に属する聖職者。献辞“To Prof. Mr. Anesaki Compliments of the author Sidney L. Gulick July 13, 1916 N. Y. City”]

Sidney L. Gulick, *America and the Orient: Outlines of a Constructive Policy*, N. Y.: Missionary Education Movement of the United States and Canada, 1916. [新, 献辞“To Prof. Anesaki with the compliments of Sidney L. Gulick”]

J. W. Robertson Scott, *The Ignoble Warrior: A Collection of Facts for Study of the*

Origin and Conduct of the War (『是でも武士か』), Tokyo, Osaka, Kyoto, Fukuoka & Sendai: Maruzen, 1916.12 [新旧, 献辞“To Dr Anesaki, this ## to an Assoc. Concordia, with the Author's best wishes”]

Siegfried Behrsing, *Das Chung-Tsi-King (衆集經) des Chinesichen Dirghagama* [私製本。奥付なし。献辞“Herrn Prof. Anesaki mit ehrerbietigem Gruss vom Verfasser”]

高山林次郎(樗牛)『世界文明史』博文館, 1898.1 [献辞「呈 姉崎學兄 明治三十一年一月 著者」]

宮崎虎之助『幽裏明』育英舎, 1905.2 [新, 献辞「呈 姉崎嘲風君」押印「め志や 佛陀」]

『靈雲寺相承安流聖教目録 上・下』[献辞「明治44年正月吉田西安、姉崎先生尊下」]

堀謙徳『印度佛教史』前川文栄閣, 1915.9 [新, 献辞「呈上姉崎博士 著者」]

斎藤勇『シェイクスピア—彼の生涯及び作物—』丁未出版社, 1916.4 [新, 献辞「謹呈 姉崎先生 斎藤勇」]

福来友吉『心靈の現象』弘学館書店, 1916.9 [新旧, 献辞「著者 謹呈 姉崎博士 殿」]

左藤繁彦(訳)『全き生活』星文館, 1916.2 [著者不明, 原題 Theologia Germanica. 献辞「謹呈 姉崎教授 左藤繁彦」]

土田政次郎『浄土教経偈和讃』鴻盟社, 1917.5 [新, 献辞「求真 拝贈」]

馬田行啓『印度佛教史』早稲田大學出版部, 1917.4 [新旧, 献辞「謹呈 乞高評 末學 馬田行啓」]

境野黄洋『聖徳太子伝』丙午出版社、1917.4〔新、献辞「呈上 姉崎正治博士黄洋」〕

久保良英（編）『児童研究所紀要 第一巻』東京 児童研究所（発行）、1918.5〔旧、押印「謹呈」〕

三生坊道人『日蓮主義と現代思潮』良書刊行会、1918.2〔新旧、献辞「乞御高教 姉崎先生 著者」〕

松浦一『生命の文学』東京寶文館、1918.1〔新、献辞「謹んで姉崎先生に呈す」「枯枝の細きに止まる雀の子その子は死なず日ものどかなり」〕

左藤太平『世界改造の基調』民衆社出版部、1921.12〔新、押印「乞高評」〕

森荘三郎『労働保険研究』有斐閣、1921.10〔新、献辞「謹呈 姉崎先生 森荘三郎」〕

長澤哲次郎『古典頌歌』上原出版部、1922.4〔新、著者より姉崎あての手紙（2枚）とはがき（1枚）がはさまれている〕

藤秀環『阿闍世王』藏経書院、1922.7〔新、献辞「姉崎先生 著者」〕

瀧精一『文人畫概論』改造社、1922.11 第四版（初版同年11月）〔新、献辞「拝呈 姉崎君精」〕

小川易近『論理的人生論』1927.4〔60部限定非売品。四穴紐綴じ。献辞「呈 姉崎正治先生」〕

永井義憲『一乗の進化 一名一乗立憲主義入門』憲啓舎、1929.6〔新、押印「供高覧」〕

山口諭助『眞理と其決定』「眞理と其決定」発行所、1930.5〔新、献辞「拝呈 乞御高教 山口諭助 姉崎正治先生」〕

聖徳太子御製（花山信勝校譯）『法華義疏』岩波書店、1931.5-1933.8〔献辞「謹呈 信勝」〕

宮本正尊『不動心と佛教（佛心と國心）』不動全集刊行會、1941.12〔新、献辞「謹呈 姉崎正治先生 玉案下 対英米宣戦布告御詔書を拝して」〕

井上禪定（編）『西遊日記』鎌倉松ヶ丘東慶寺、1941.11〔新、献辞「呈上 東大宗教学研究室 井上禪定」〕

中川日史『死に生く』大日本雄辯會講談社、1942.8〔新、献辞「著者 姉崎正治先生 惠存」〕

1. 東大寄贈本

(a) 和書

高山林次郎（姉崎正治、齋藤信策共編）『樗牛全集』東京：博文館、1904.1-1906.11〔全6冊。但し、受け入れ票によると寄贈は5冊〕

高山林次郎（姉崎正治、齋藤信策共編）『樗牛全集』（増補縮刷版）東京：博文館、1914-1916〔全6冊〕

『京都叢書』京都：京都叢書刊行會、1914-1917〔16冊；1.京童／中川喜雲撰．京童跡追／中川喜雲撰．菟糞泥赴／北村季吟撰；2.出來齋京土産．堀河之水／富尾似船撰．京内まいり．都花月名所／秋里籬島撰；3.洛陽名所集／山本泰順撰．京師巡覽集／丈愚撰．近畿歴覽記／黒川道祐撰；4.扶桑京華志／松野元敬撰．名所都鳥．京町鑑／蘆田鈍永撰；5.京雀／淺井了意撰．山域名跡巡行志／淨慧撰．京城勝覽／貝原益軒撰．都名所車；6.山域名勝志／大島武好撰；7.山域名勝志／大島武好撰；8.京羽二重／孤松子撰．京羽二重織留／孤松子撰．山域名所寺社物語．洛陽十二社靈驗記／松浦星洲

撰；9.都名所圖會・都名所圖會拾遺／秋里
籬島編；10.雍州府志／黒川道祐撰・日次紀
事／黒川道祐撰；11.京都坊目誌／碓井小
三郎編；12.京都坊目誌／碓井小三郎編；13.
京都坊目誌／碓井小三郎編；14.京都坊目
誌／碓井小三郎編；15.京都坊目誌／碓井
小三郎編；16.索引 1917.3.]

エレン・ケー等『大戦と戦後の新局面』東
京：博文館，1917.5.〔婦一協会叢書3〕

バーナード・フレクスナー、ロウチャー・
エヌ・ボールドウィン（婦一協会訳）『少
年裁判所及監視制度』東京：博文館，
1922.4〔婦一協会叢書9〕

エルワード（婦一協会訳）『社會問題の改
造的解釋』東京：博文館，1920.10〔婦一協
会叢書7〕

大久保周八（編）『世界大雄辯物語集』東
京：大日本雄弁会講談社，1929.1

補永茂助『日本倫理思想の系統』東京：天
地書房，1922.11

ヴィンデルバンド（戸坂潤譯）『意志の自
由』東京：大村書店，1925.1.

和辻哲郎『偶像再興』東京：岩波書店，
1918.12

ジェームズ（上野隆誠譯）『實用主義の哲
學』東京：理想社，1939.5.

朝永三十郎『デカート』東京：岩波書店，
1925.7

上野直昭『精神科學の基本問題』東京：岩
波書店，1916.10

古谷榮一『循環論證の新世界觀と錯覺自我
説』東京：古谷榮一；東京：第一書房（發
賣），1926.5

リップス（藤井健治郎 訳）『倫理學の根本
問題』東京：同文館，1921.11

ショペンハウエル（姉崎正治譯）『意志と
現識としての世界』東京：博文館，1910.9-
1911.10〔3冊〕

速水滉『現代之心理学』東京：不老
閣，1924.（18版），初版1914.

河合三郎『腦力集中及其休養』東京：三德
社，1921.3

友枝速水『大日本國皇道十觀：一名天真自
性本論』八屋町（福岡県）：友枝速水，
1923.12

平田長子，久保惠鄰同編『明教事實』〔京
都〕：杉之舎，1874.10

鈴木龍司『現代意識と道德問題』東京：森
江書店，1927.5

加藤玄智『宗教講話』東京：隆文館，1905.5

ロジエストウェンスキイ（堀江復譯）『神
學汎論』〔東京〕：〔正教會編輯局〕，
1889.12-1891.1

飯田堯一『思索・體驗・実践』東京：文書
堂，1931.2

飯沼龍遠『現代日本人の信仰』東京：心理
學研究會出版部，1918.3

ジ・エフ・ムーア（菅圓吉譯）『比較宗教
史概論』東京：啓明社，1928.4

ウィリアム・チューダー・ジョンズ（植木
謙英譯）『生活より宗教へ』東京：同文館，
1926.8

世界宗教平和會議日本委員会編『日本宗教
平和會議紀要』東京：世界宗教平和會議日
本委員会，1932.2

アルフレッド・マーチン（高野正治譯）
『東方の大宗教家』東京：内外圖書，1926.2

波多野精一『宗教哲學序論中の一節』〔抜
刷りを製本したもの。鉛筆書きで「謹呈
著者」とあり。〕

ジョン・ケーアド（武藤武訳）『宗教哲学
原論』東京：森出版社，1922.4

石神徳門『宗教心理の研究』東京：六合館
1913.9

ジェイムズ・ビー・プラット（岡島誘訳）
『宗教心理講話』東京：廣文堂，1911.4

大日本文明協會編『世界の宗教』東京：大
日本文明協會，1910.3

ジョージ・エ・バートン（金山龍重譯）
『世界宗教史』東京：丙午出版社，1925.11

横山流星『淫神邪教と迷信』東京：二松堂
書店，1920.11

日本宗教懇話會編『日本宗教大會紀要：御
大典記念』東京：日本宗教懇話會，1928.12

平山省齋述『修道真法』〔出版地不明〕：大
成文教務庁，1912.5

友枝速水『惟神皇道歌（眞澄鏡）』発行：
東京、印刷：浜松，1925.7.

森亮臧編『靈祭畧式』東京：山田亀一郎，
1880.7

山口宏澤述『天理神託御筆先之部』東京：
神道學會，1925.12.

浩々洞編『佛教辭典』東京：無我山房，
1909.

眞宗大谷大學尋源會出版部編『梵漢對照新
譯法華經』京都：眞宗大谷大學尋源會出版

部，1913.9〔受け入れ票には『新譯法華經』
とのみ記載〕

知恩院御忌法務局『華頂誌要』京都，
1911.3.

常盤大定『英漢對照和訳法句經』東京：森
江書店，1924.

伊澤栄次『山寺名勝志』山形県羽前国東村
山郡山寺村：宝硯堂，1908.9. 1925.9.（再
版）

權田雷斧『密教綱要』東京：丙午出版社，
1916.12

飯田樵隱『無門關鎖燧』東京：森江書店
1924.3.

稲村修道編輯『禪林寺誌』京都：法蔵館，
1913.4

淨嚴『真言行者初心修行作法』

苾芻凝空『密門雜抄』

常盤大定『馬鳴菩薩論：教界文豪』東京：
金港堂書籍，1905.7

柿花啓正編『進擊的佛教』東京：仏教救世
軍第三仏教研究会，1916.3

淨嚴『通用字輪觀』1795.11.（寛政7年11
月）

『國譯一切經』東京：大東出版社，1929-
1936〔31冊〕

本間俊平『一石工の信仰』東京：隆文館，
1922.6

松本雲舟『日々の祈り』

スエデンボルグ（鈴木貞太郎訳）『天界と

- 地獄】東京: 有楽社, 1910.3
- 山中峯太郎『我れ爾を救ふ』東京: 警醒社書店, 1920.
- 新妻敬治講述『正教講話』東京: 東陽堂; 東京: 中川藤四郎 (発売), 1909.4
- 台湾総督府国語学校校友会『臺灣人の俗説迷信』〔臺北〕: 台湾総督府国語学校校友会, 1915.6
- 櫻井文光『新宗教』〔東京〕: [櫻井文光], 1916.1序
- 野上八良『上代文学に現れた日本精神』
- 真島弟彦『間島冬道翁全集上・下』東京: 間島弟彦, 1919.11
- 弘田由己編纂『白露集』東京: 弘田由己, 1925.12
- 『八代集』〔出版データ不明〕
- 九條兼実『玉葉』〔出版データ不明〕
- 『和歌作法全集』〔出版データ不明〕
- 『國文叢書』東京: 博文館 1912-1917〔15冊; 太平記、曾我物語; 今昔物語、古今著聞集; 源氏物語; 蜻蛉日記、外五種; うつほ物語、外三種; 宇治拾遺、外二種; 源平盛衰記; 竹取物語外五種; 榮華物語; 水鏡〕
- 國民文庫刊行會編輯『狂言全集』東京: 國民文庫刊行會, 1910.
- 永田青嵐, 巖谷小波詠; 東京市編纂『市民の歌へる: 詩集』東京: 帝都復興叢書刊行會, 1924.3
- 長谷川誠也『文芸思潮論』1929.
- クーデンホーフ; 永富守之助譯『汎ヨーロッパ』東京: 國際聯盟協會, 1924.4.
- ルッソオ (石川戲庵譯)『懺悔録 後編』東京: 大日本図書, 1912.
- 青木昌吉『獨逸文學と其國民思想』東京: 春陽堂, 1924.
- 大西林五郎編『支那書画人名辭書』東京: 松山堂書店, 1919.12
- 福井菊三郎『日本陶磁器と其國民性』東京: 大橋光吉, 1927.
- 栃内曾次郎編『洋人日本探險年表』〔東京〕: [水交社], 1909.12
- 文明協會編『明治・昭和戊辰感想録』東京: 文明協會, 1928.6
- 黒川真道編『鎌倉北條九代記』東京: 集文館, 1912.1
- タキツス (西田宏譯)『ゲルマニア』東京: 新撰書院, 1931.2
- 模礼松 (モリソン) (大槻誠之 [東陽]) 点; 塚本明毅, 重野安禪閑『古今萬國網鑒録』東京: 青山堂, 万巻楼, 1874.5
- 八木契三郎『日本考古學』東京: 嵩山房, 1914.1
- 池田成章編『鷹山公世紀』東京: 池田成彬, 1924.12〔姉崎蔵書印あり〕
- 根岸橋三郎『新島襄』東京: 警醒社書店, 1923.1
- 金杉英五郎『山陵の復古と精忠』東京: 日本醫事週報社, 1926.9
- 〔河合利安編〕『杉亨二自叙傳』〔出版地不明〕: [河合利安], [1918]

- 遠藤順治編『聖女光子の聲』東京：神生教壇；東京：誠文堂書店（發賣），1917.10
- 山本信次郎話；石塚彌助編『攝政殿下の御日常を拝して』東京：日本警察新聞社，1925.4
- 東京齒科醫學專門學校編『野口英世：其生涯及業績』東京：東京齒科醫學專門學校，1928.9
- 沼田頼輔『山内豊範國事功勞事蹟』東京：沼田頼輔，1928.6
- アレン・ジョンソン（高木八尺・松本重次譯）『米國三偉人の生涯と其の歴史的背景』東京：有斐閣，1928.
- 沢田謙『ムッソリニ傳』東京：大日本雄弁会講談社，1928.2
- 中山正善『鮮滿支素見』奈良：天理教教廳印刷所，1927.11.
- 沼田頼輔『白根と黒髪』東京：非売品、発行者は著者に同じ，1926.9.
- 大日本帝國陸地測量部『東京市（復興）街路及運河（第一回）予定計画圖』
- 佐々木吉三郎『世界の大勢と大正教育の方針』東京：目黒書店，1915
- 朝鮮總督府『普通学校朝鮮語及漢文讀本卷一』京城：朝鮮總督府，1915.3.
- 高楠順次郎編『統一日曜學校教案：教師用』東京：統一日曜學校教案發行所，1911.9
- 牧野英一『現代の文化と法律』東京：有斐閣，1918.4
- 鵜澤總明『春湫論集』東京：春秋社，1916.4
- 松村介石『日本改造論』東京：道會事務所，1923.11
- インマヌエル・カント（高橋正彦譯）『永久平和論：哲學的考察』東京：國際聯盟協會，1924.4
- 榊本卯平『産業帝國主義（東亞前途の栞）』洛陽堂，1916.5.
- 室伏高信『光は東より』東京：批評社，1927.5.
- 東京帝國大學文學部宗教學研究室編『労働者の思想に関する調査』東京：東京帝國大學文學部宗教學研究室，1923.6
- 小野秀雄『日本新聞發達史』大阪：大阪毎日新聞社 東京：東京毎日新聞社 1922.8
- 内務省東京土木出張所『利根川改修工事概要概要』東京：内務省，1928.4.
- シーボルト先生渡來百年記念會編輯『シーボルト先生渡來百年記念論文集』[長崎]：シーボルト先生渡來百年記念會，1924.4
- 森田正馬『神經衰弱及強迫觀念の根治法』東京：實業之日本社，1930.
- 婦一協會『震災に関する宗教道德的觀察』
- 佐藤鐵太郎『帝國公防論抄』東京：東京印刷株式会社，1912.2
- 『臺灣』東京：1895.6〔出版データ不明。同名書には民友社版と博文館版あり〕
- 『哲學會雜誌』東京：哲學會〔11冊〕
- 『人文』（自第一至第三）東京：樗牛会，1916，1917，1918〔3冊〕

(b) 洋書

Goldsworthy Lowes Dickinson, *The European Anarchy*, Lond.: Allen & Unwin, [1916.]

Sydney Herbert, *Nationality and Its Problems*, Lond.: Methuen, [1920].

S. G. Hobson, *Guild Principles in War and Peace*, Lond.: Bell, 1917.

Alfred Korzybski, *Manhood of Humanity: The Science and Art of Human Engineering*, N. Y.: Dutton, [1921.]

M. D. Petre, *Democracy at the Cross-roads*, Lond.: Unwin, [1918].

James W. Gerard, *Face to Face with Kaiserism*, N.Y.: Doran, [1918].

L. H. Jordan, *The Study of Religion in the Italian Universities*, 1909.

George Edgar Vincent, *The Rockefeller Foundation: A Review for 1923*, N. Y.: The Inst., 1929.

Ferdinand Brunetiers, *Questions Actuelles*, Par.: Perrin, 1907.

Paul Carus, *Philosophy as A Science: A Synopsis of the Writings*, Chic.: Open Court pub. co., Lond: Paul, 1909.

A. Ricardou, *De l' Idéal Étude Philosophique*, Par.: Alcan, 1890.

Oliver Lodge, *Modern Problems*, Lond.: Methuen, [1912].

Raoul Allier, *La Philosophie d' Ernest Renan*, Par.: Alcan, 1906.

W. Gass, *Optimismus und Pessimismus: Der Gang der Christlichen Welt- und Lebensansicht*, Ber.: Reimer, 1876.

Hermann Gruber, *Der Positivismus, Vom Tode August Comte' s bis auf Unsere Tage.(1857-1891)*, Breisgan: 1891.

D. Parodi, *La Philosophie Contemporaine en France*, Par.: Alcan, 1919.

Leslie J. Walker, *Theories of Knowledge: Absolutism, Pragmatism, Realism*, Lond.: Longmans, 1910.

Olive A. Wheeler, *Anthropomorphism and Science: A Study of the Development of Ejective Cognition in the Individual and the Race*, Lond.: Allen, 1916.

Chevert Saunois, *La Liberté de Conscience en France et a l' étranger*, Par.: Perrin, 1890.

Fernand Nicolay, *L'âme et l' instinct: L' homme-l' animal, d' après les Dernieres Decouvertes de la Science*, Par.: Perrin, 1922.

Oliver Lodge, *Life and Matter: A Criticism of Professor Hückel's "Riddle of the Universe"*, Lond.: William & Norgate, 1905.

K. J. Spalding, *Desire and Reason: Being an Account of the Origin and Development of Intellectual Principles*, Lond.: Paul ; N. Y.: Dutton, 1922.

J. M. Baldwin, *Thought and Things: A Study of the Development and Meaning of Thought or Genetic Logic. Vol. 1*, Lond.: Sonnenschein, 1906 ; N. Y.: Macmillan, [n.d.]

Hugo Münsterberg, *Psychology and Social*

Sanity, N. Y.: Doubleday, 1914.

Henry Addington Bayley Bruce, *Psychology and Parenthood*, N. Y.: Dodd, 1916.

Gustave Le Bon, *Premières Conséquences de la Guerre: Transformation Mentale des Peuples*, Par.: Flammarion, 1917.

Everett Dean Martin, *The Behavior of Crowds: A Psychological Study*, N. Y. ; Lond.: Harper, [c.1920.]

Diogenes, *At the Cross-roads: A Plea for the Ethics of a Democracy*, San Fran.: [the Printing Cor], 1926.

Alexander Bain, *Mental and Moral Science*, Lond.: Longmans, 1884.

Albert Bazaillas, *La vie Personnelle: Étude sur Quelques Illusions de la Perception Intérieure*, Par.: Alcan, 1903.

Paul Stapfer, *Questions Esthétiques et Religieuses*, Par.: Alcan, 1906.

Bernard. O'Reilly, *Life of Leo XIII. From An Authentic Memoir Furnished by His Order Written with the Encouragement Approbation and Blessing of His Holiness the Pope*, Lond.: Low, 1887.

Alfred Loisy, *Guerre et Religion*, Par.: Nourry, 1915.

S. J. Broadbent, *Science: The Demonstrator of Revelation*, Lond.: Nisbet, 1905.

James Thomson Shotwell, *The Religious Revolution of To-day*, Bost. ; N. Y.: Mifflin, 1913.

Chapman Cohen, *Religion & Sex: Studies*

in the Pathology of Religious Development, Lond.: Foulis, [1919]

William Edwin Orchard, *The Outlook for Religion*, Lond.: Cassell, 1917.

T. Witton Davies, *Magic, Divination, and Demonology, Among the Hebrews and Theirneighbours: Incl. Examination of Biblical References and of the Biblical Terms*, Lond.: Clarke; Leip., Spingatis, [Pref. 1898.]

Par Abauzit...[et al.], *Le Sentiment Religieux à l'heure Actuelle: Entretiens et Discussions*, Par.: Vrin, 1919.

Alphonse Primot, *La Psychologie d' une Conversion du Positivisme au Spiritualisme*, Par.: Perrin, 1914.

J. C. Ghose, *The Positive Religion*, Bhowanipur: Cal. Law Press, [n.d.]

Otto Seemann, *Die Gottesdienstlichen Gebreuche der Griechen und Römer*, Leip.: Jahresberichts, 1888.

Fernand Nicolay, *Histoire des Croyances: Superstitions, Moeurs Usages et Coutumes(selon le Plan du Decalogue)*, Par.: Retaux, [n.d.]

Cornelis Petrus Tiele ; tr. by G. K. Nariman, *The Religion of the Iranian Peoples*, Bombay: The Parsi pub. co., 1912.

Edward Scribner Ames, *The Higher Individualism*, Bost. ; N. Y.: Mifflin, 1915.

Charles F. Dole, *The Coming Religion*, Bost.: Small, [1910].

Albert Houtin, *La Crise du Clergé*, Par.:

Nourry, 1908.

Leon Chaine, *Menus Propos d' un Catholique Libéral*, Par.: Libraire Critique, 1908.

Abbe Jehan de Bonnefoy, *Le Catholicisme de Demain*, Par.: Nourry, 1908.

Abbe de Broglie, *Les Fondements Intellectuels de la Foi Chrétienne*, Par.: Bloud, 1907.

John R. Coates, *The Christ of Revolution*, Lond.: Swarthmore, [Pref.1920.]

Herbert B. Workman, *Christian Thought to the Reformation*, Lond.: Duckworth & co., 1911.

H. K. Carroll, *The Religious Forces of the United States, Enumerated, Classified, and Described*, N. Y.: Scribner, 1912.

Friedrich Ohninger, *Geschichte des Christentums in Seinem Gang durch die Jahrhunderte*, Emmishofen: Hirsch, [Vorw.1897.]

Das Buch der Religion, od. Der Religiöse Geist der Menschheit in Seiner Geschichtlichen Entwicklung: Für die Gebildeten des Deutschen Volkes Dargestellt v. Einem Deutschen Theologen, Leip.: Brockhaus, 1850.

Heinrich Karl Hugo Delff, *Cultur und Religion: Die Entwicklung des Humanen Bewusstsein, historisch und Philosophisch Betrachtet*, Gotha: Perthes, 1875.

Paulus Cassel, *Die Hochzeit von Cana, Theologisch und Historisch in Symbol, Kunst und Legend: Mit Einer Einleitung in*

Das Evangelium Johannis, Ber.: Schulze, 1883.

Marcel Rifaux, *L' agonie du Catholicisme...?*, Par.: Plon-Nourrit, 1906.

Henry W. Clark, *The Christ from Without and Within: A Study of the Gospel by St. John*, Lond.: Melrose, 1904.

Winston Churchill, *The Inside of the Cup*, N. Y.: Macmillan, 1913.

Eugen Filtsch, *Goethes Religiöse Entwicklung: Ein Beitrag Seiner Inneren Lebensgeschichte*, Gotha: Perthes, 1894.

Carl Twesten ; herausg. von M. Lazarus, *Die Religiösen, Politischen und Socialen Ideen der Asiatischen Kulturvölker und der Aegypter in Ihrer Historischen Entwicklung*, Ber.: Dummler, 1872.

Reinhold Gunther, *Kulturgeschichte der Liebe: Ein Versuch*, Ber.: Duncker, 1899.

James Watson Gerard, *My Four Years in Germany*, N.Y.: Doran, [c.1917.]

A. Gleichen-Russwurm, *Die Sonne der Renaissance: Sitten und Gebrauche der Europaischen Welt. 1450-1600*, Stut.: Hoffmann, 1921.

G. Riou, *Journal d'un Simple Soldat, Guerre - Captivite, 1914-15*, Par.: Hachette, 1917.

Hugh Gibson, *A Journal from Our Legation in Belgium*, N. Y.: Doubleday, 1917.

Arthur Roy Leonard, *War Addresses of W. W.*, Bost.: Ginn, [c. 1918.]

- Thomas F. A. Smith, *What Germany Thinks; Or, the War As Germans See It*, Lond.: Hutchinson, 1915.
- Maurice Barres ... [et al.], *The War and the Spirit of Youth*, Bost.: Atlantic Monthly, 1917.
- Alexander Brückner, *Beiträge Zur Kulturgeschichte Russlands Im XVII: Jahrhundert*, Leip.: Elischer, 1887.
- C. S. Cooper, *The Modernizing the Orient*, New York: McBride, Nast & Company, 1914.
- Ferdinand Buisson, *La Religion, la Morale et la Science: Leur Conflit Dans l'education Contemporaine. 4 Conférences Faites a l' Aula de l' Univ. De Genève (avril 1900)*, Par.: Fischbacher, 1900.
- Ransom A. Mackie ; with an introd. by G. S. Hall, *Education During Adolescence: Based Partly on G. S. Hall's Psychology of Adolescence*, N. Y.: Dutton, 1920.
- Hugh Hartshorne, *Worship in the Sunday School*, N. Y.: Teachers College, Columbia Univ., 1913.
- Thomas Walton Galloway, *The Use of Motives in Teaching Morals and Religion*, Bost. ; Chic.: Pilgrim, [c1917.]
- Francis Greenwood Peabody, *The Religious Education of An American Citizen*, N. Y.: Macmillan, 1917.
- John Burnet, *Higher Education and the War*, Lond.: Macmillan, 1918.
- A. M. Du Caurroy, *Institutes de Justinien*, Par.: Thorel & Toussaint, 1846.
- Abbott Lawrence Lowell, *Public Opinion in War and Peace*, Camb.: Harvard Univ. Press, 1926.
- John Watson, *The State in Peace and War*, Glasg.: Maclehose, 1919.
- Enrico Catellani, *L' estremo Oriente e le Sue Lotte*, Milano: Treves, 1904.
- Theodore Roosevelt, *The Foes of Our Own Household*, N. Y.: Doran, [c.1917]
- Charles Maurras, *Enquete sur la Monarchie*, Par.: Nouvelle Libr. Nationale, 1916.
- M. Erzberger ; tr. by Bernard Miall, *The League of Nations: The Way to the World's Peace*, Lond.: Hodder & Stoughton, 1919.
- W. H. Mallock, *Studies of Contemporary Superstition*, Lond.: Ward, 1895.
- G. T. W. Patrick, *The Psychology of Social Reconstruction*, Bost. ; N. Y.: Mifflin, 1920.
- John Harvey ... [et al.], *Competition: A Study in Human Motive*, Lond.: Macmillan, 1919.
- W. Rathenau, *The New Society*, Lond.: Williams & Norgate ; N. Y.: Harcourt, Brace & Howe, 1921.
- P. Stanislas Reynaud, *La Question Sociale et la Civilisation Païenne*, Par.: Perrin, 1906.
- Felix Adler, *The Reconstruction of the Spiritual Ideal: Hibbert Lectures...1923*, N. Y. ; Lond.: Appleton, 1924.
- Alfred Russel Wallace, *Social Environment and Moral Progress*, Lond.: Cassell, 1913.

Jack London, *War of the Classes*, N. Y.: Macmillan, 1912.

J. Guibert, *Le Mouvement Chrétien, Dans l'âme Humaine: Devant l'Incrédulité, Devant la Science*, Par.: Bloud., [n.d.]

Shailer Mathews, *The Church and the Changing Order*, N. Y.: Macmillan, 1913.

Jane Addams, *The Spirit of Youth and the City Streets*, N. Y.: Macmillan, 1918.

John Oman, *The War and Its Issues. An Attempt at a Christian Judgement*, Camb.: The Univ., 1916.

Lothrop Stoddard ; with an introd. by Madison Grant, *The Rising Tide of Color Against White World-supremacy*, Lond.: Chapman, 1921.

G. Ratzinger, *Geschichte der Kirchlichen Armenpflege*, Freiburg im Breisgau: Herder, 1884.

Pierre-Jean Achalme, *La Part des Diverses Nations Européennes Dans les Grandes Découvertes Scientifiques*, Par.: Payot, 1916.

Wilhelm Bölsche, *Das Liebesleben in der Natur: Eine Entwicklungsgeschichte Der Liebe. 5.-6. tausend*, Leip.: Diederichs, 1901.

T. W. Rolleston, *Parallel Paths: A Study in Biology, Ethics, and Art*, Lond.: Duckworth, 1912.

R. N. Bradley, *Duality: A Study in the Psycho-analysis of Race*, Lond.: Routledge, 1923.

(c) 洋雑誌

Nuova Antologia di Lettere, Scienze ed Arti, 1919-1920, Roma: Nuova antologia

The American Review of Reviews, 1916-1922., New York: The Review of Reviews Corporation

The Atlantic Monthly, Vol. 115-135, Boston & New York: The Atlantic Monthly Corporation

Deutsche Rundschau, Bd. 162, 164, 1915, Berlin, etc.: Gebrüder Patet

The Fortnightly Review, Vol. 577-581, 584, 586-588. 1916-1920, London: Chapman and Hall

The Japan Year Book, 1913, Tokyo: Foreign Affairs Association Company

The Nation, 1917-1925, New York: The Nation Press

The Nineteenth Century and After, 1915-1921, London: Constable

The North American Review, 1915-1920., New York: The North American Review Publishing Co.

The Review of Reviews, 1915-1921, London: The "Review of Reviews" Office

La Revue de Paris, 1915-1920, Paris: Bureau de la Revue de Paris

Revue des Deux Mondes, Tom. 17(4), Tom.18(1-3). 1915-1923, Paris: Bureau de la Revue deux monds

The Contemporary Review, 1916-1920,

London: The Contemporary Review
Company

*Sitzungsberichte der Königl. Bohm.
Gesellschaft der Wissenschaft*, 1887-88,
1895-98, 1901, 1892.

The New Europe, 1917-1918, London:
Constable

Scientifia, 1918-1923, Bologna: Nicola
Zanichelli, London: Williams & Norgate,
Paris: Feux Alcan

*Zwölftes Jahrbuch der
Schopenhauergesellschaft*, 1923-1925, Kiel:
Schmidt & Klaunig